

# 歯科衛生士が正しく活躍する日本にしたい

一般社団法人 Jokan スクール 代表

上間京子先生



1913年にアメリカで歯科衛生士という職業は生まれました。日本では1948年（昭和23年）に法制化され、75年の月日が経ちました。日本型といえはそれまでですが、日本は未だに歯科衛生士という職業の形が定かではない気がしてなりません。何より歯科衛生士という職業は世間から人気がありません。それを現す数字があります。歯科衛生士養成校は国公立大、専門学校を合わせると全国に181校あります。しかしその約半数の学校が定員割れに苦しんでいると聞きます。なぜに？と思います。歯科衛生士ほど有効求人倍率の高い職業はありません。“引く手あまた”なのです。それでも人気がない。歯科衛生士を目指す高校生が少ない。なぜでしょうか・・・原因は色々あると思います。

歯科衛生士は3年間の専門教育を受け国家試験に合格してはじめてその資格が取れます。しかし『歯科衛生士という職業の形が定かではない』このことをまざまざと感じたことが昨年ありました。ある歯科医院で研修をしていた時のことです。私の講義を聞いている10名ばかりの歯科衛生士に私はこう

問いました。「皆さんが知人友達に歯科衛生士ってどんな仕事？て聞かれたら、どう答えますか」と。予想どおり沈黙が広がりました。私は目の前のホワイトボードに大きく書きました。『歯科衛生士はお口の中の病気、う蝕や歯周病が発症しないように予防する仕事』と。歯科衛生士たちは息を飲んだような顔になりました。そうなのです、そのつもりで歯科衛生士になった人もいれば、歯科衛生士がどんな仕事かわからないままで目の前の仕事に明け暮れている人も大勢いるのです。ただその仕事にやりがいは感じず、ましてや誇りなど持てずに働いている人が大半です。昔からよく言われている“歯科衛生士は歯科医師のお手伝いさん”です。

『歯科衛生士の社会的地位向上』これが私のミッションです。歯科衛生士が日本の社会から認められ、本来の姿で正しく活躍する日本にしたいのです。それが日本の医療費削減に直結し日本人を健康に導くと信念を持っています。

私は20年ほど前から一般社団法人 Jokan スクールという研修組織を運営しています。『口腔内の健康を回復し維持できる歯科衛生士を育成する』これを基本理念とし、人間性・知識・技術、3つのバランスをとりながら品格のある人間の育成を目指しています。甚だ僭越ながら後藤新平の“人を遺す”が私の信念です。初めてのネコの会で講演させて頂く栄誉を頂き、今回は私のこの信念をお話しさせていただきます。